

総合計画（R1）外部評価委員会（要点筆記）

令和2年9月14日（月）政策企画部 企画振興課

| 施策1 観光戦略の推進 | |
|---------------|--|
| 委員 | 菊池溪谷の情報発信に関連して、溪谷を散策しながらでも Wi-Fi がつながるような設備は、今後考えているのか。 |
| 執行部 | 観光拠点施設は、くまもとフリーWi-Fi を利用できるようになっている。溪谷全域で使える Wi-Fi は無いため、今後は検討したい。 |
| 委員 | 「グルメ菊池」の認定基準や要綱の策定、審査要領の作成が今年度は調整中とのことだが、昨年度からの継続案件である。いつからスタートされるのか。 |
| 執行部 | 要綱の対象店舗を中心市街地で予定していたが、対象地区外で出店を希望される話があったため、要綱の策定に至っていない。現在コロナ対策で、飲食店については既存店の立て直しを優先しているため、要綱の制定等の目途はたっていない状況である。 |
| 委員 | 観光入込客数は、震災前と比べてどうか。 |
| 執行部 | 菊池溪谷は震災前と比較するとまだ減っている状態である。夏の大雨の影響もあり、客数としては伸びなかった。 |
| 委員 | 観光戦略の推進における事業着手の遅れは、コロナ禍や他に理由があり理解もできるが、昨年度から継続案件の事業については、何が支障になっているのかが気になる。 |
| 施策2 菊池ブランドの推進 | |
| 委員 | 6次産業化で、新たに商品が販売されるとき、PR はどうしているのか。 |
| 執行部 | 商品はネット販売の他、物産館等での店頭販売において、新商品の PR を行っている。その他、菊池溪谷ビジターセンターにも置いている。 |
| 委員 | 市民が知るきっかけとして、道の駅や店内にある食堂での試食等、市民に食べてもらうことが大事である。意見やアンケートを取った方がいいのではないか。 |
| 執行部 | 新商品の開発については、本市の料理アドバイザーに試食・評価してもらっているが、各売り場での試食は無かったので、第3セクターを中心に進めていきたい。 |
| 委員 | 道の駅2つほど回って見てみた。並んでいる新商品の数がまだ少ないし、市民目線としては買いたいものではなかった。まずは市民が理解し、食べた上で、良いものだとして認識することが大事だと思う。菊芋はいろいろな料理をして美味しかったので、みなさん是非試してほしい。市民が良いと思わないと人には勧められない。 |

| | |
|------------------|---|
| 執行部 | コロナ禍でネット販売が伸びている。市民は自宅で採れた作物を食べるので、6次産業化による加工品は、地元であり消費されていない。加工品自体が、保存食のような位置づけになっている。菊芋は糖尿病の未病（予防）への対策としてもPRしたい。 |
| 委員 | 小規模農家や高齢農家まで、菊池基準で作らなければならないのだろうか。環境に優しい取り組みが菊池基準なのか、市外の人に消費される質の高い農産物であることを保証するのが菊池基準なのか、菊池基準の考え方を教えてほしい。 |
| 執行部 | 菊池基準は基準を7段階設け、取り組みやすくしている。基準が上がるごとに、農薬や化学肥料の使用回数が低減される。他の農林産物との差別化を図るためにも、本市独自の安心安全を保証された菊池基準で作っていただき、市外への販売につなげたい。 |
| 施策3 農業の振興 | |
| 委員 | 有害鳥獣による農作物被害の低減について、カラスの被害は確かに減少しているが、七城ではイノシシの目撃情報が多くなっている。農作物被害の低減につながっているのか。 |
| 執行部 | 有害鳥獣の捕獲の他に、電牧柵や侵入防止柵などの設置補助などを行い、農林作物被害の軽減に取り組んでいる。国の補助事業による侵入防止柵等設置の要望が多く、1年程度待ちの状況である。今後も予算確保を含め、引き続き重点的に取り組むべき課題と捉えている。 |
| 委員 | 人が住む近いところにイノシシやサルが出没している。最近恐いのが、子どもたちの登下校の時間帯や通学路に出没しており、市等から連絡があるが、私たちでは何もできない。農作物被害はもちろん、人的に被害が出る前に何らかの対策を講じてほしい。 |
| 執行部 | 議会からも対策について要望がっており、今後も対策について考えていきたい。 |
| 委員 | 最近、農業委員会では新規就農者が月2～3件上がっているが、ほとんどが40～60代後半の方である。子どもたちに農業をさせたくないところが多い。以前、退職後就農された芦北の玉ねぎ農家の話を聞いた。退職後、就農することも耕作放棄地を減らすための一つの策だと思うがいかがか。 |
| 執行部 | 新規就農者は、退職後に農業大学校で講習を受ける人や他の産業から転職して有機農業を始める人もいるが、離農も多いのが現状である。若い人は全職種で人が不足している。兼業で農業をする等、農作業に携わる機会を増やしていきたい。また、最近は集落営農も増えてきている。 |
| 委員 | アグリサイエンスパーク構想で、学校との調整が難航した理由は何か。 また、林業振興事業における作業道の開設経費の補助はどのくらい出るのか。 |
| 執行部 | アグリサイエンスパーク構想で学校との調整が難航したのは、高校との協議の取り掛かりが遅れ、高校の授業に組み入れることができなかったためである。 作業道の開設経費の補助は、2戸以上組織する受益者の組合が対象となる。作業道（幅員3m）に対して1500円/m、作業路（幅員2m）は500円/m。実績は、作業道が6路線、作業路が26路線となっている。重機で山を切り開くため、補助金は経費の半額くらいになると考える。 |

| | |
|--------------|---|
| 施策 4 商工業の振興 | |
| 委員 | 空き家・空き店舗ツアーで、空き家を紹介し、交渉に繋がったが、賃借や売買の合意に至らなかった理由の主なものは何か。 |
| 執行部 | 金額面では折り合っていたが、事業内容が貸主の合意を得られなかった。 |
| 委員 | 「歩き愛です」事業は、立ち寄り率を上げ、滞在時間を延ばす取り組みと思うが、そもそも立ち寄りところがあるのか。立ち寄ったところでポイントやスタンプ等をもらうなど、成果が見えるような仕組みがあるのか。事業スキームを整理して、成果が見える仕組みにしたらどうか。 |
| 施策 5 学校教育の充実 | |
| 委員 | 全国標準学力検査の数値が上がっていないのに、教職員の学習指導力の向上が図られたとして、達成度が高評価なのはなぜか。 |
| 執行部 | 学力不振児童は減少し、全体的な底上げはできたが、上位のできる子の引き上げができなかったため、全国標準学力検査の数値が上がらなかった。しかし、これまで、新学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学びを実現する授業」を目指し、取り組んできており、県が実施した教職員意識調査や ICT 活用状況結果より、このような授業取組が展開されたことから、達成度は高くなった。 |
| 委員 | 大学でもコロナ禍で授業ができず、web になっている。教育の水準としては、クオリティが低下していると考えている。ICT も子どもの向き不向きがある。菊池の義務教育の子どもたちに対し、コロナ禍での教育の確保の取り組みは何を実施したのか。 |
| 執行部 | 学校は指導主事がカリキュラムの作り直しを行い、6 月から再開した。特に中 3 の生徒に対しては、重点的にモバイル機器やタブレットの貸し出しを行い、家庭学習を進めた。本年度予算で年度内にタブレット 1 人 1 台化を進めている。そうすれば学習ドリルもタブレットへ落とし込み可能になるため、Wi-Fi 環境が無くても勉強ができるようになる。また、各家庭での Wi-Fi の環境整備にも同時に取り組んでいる。 |
| 委員 | 子どもたちは、タブレットの使い方は慣れているが、心が学習のツールとして使うものになっていない。子どもだけで自宅学習しても集中力、モチベーションがもたず、難しさを感じた。子どもより親の方が不安を抱えている。子どもの不安と親の不安に対して両輪で対応してもらいたい。 |
| 執行部 | 自学力（子どもたちが自ら学ぶ意識をもたせる）の向上が菊池の子どもたちの課題でもあるため、克服に向けた家庭学習を進めていきたい。学習の中身についてはカリキュラムの見直しも行き、時間数の確保もできている。保護者に対しては、学校を通して説明し、不安を払拭していきたい。 |
| 委員 | H30 年度と比較すると、体力テストにおける体力の成果指標の変動幅が大きいのはなぜか。 |
| 執行部 | 項目がいくつかあるが、平均を超えた項目数が少なくなるとポイントとして減るような仕組みになっている。中身を見ると、全体的にはそう変わらないと見ている。 |
| 委員 | スクールソーシャルワーカーの相談内容、件数について状況をお聞きしたい。 |

| | |
|------------------------------|--|
| 執行部 | 相談件数は H29 年度 466 件、H30 年度は 353 件、R1 年度は 430 件で増減を繰り返している。いじめ発生件数は、H29 (67 件) H30 (36 件) R1 (30 件) で年々減少傾向にある。相談内容は、不登校に関するものが一番多く、相談の約 8 割が不登校に関することとなっている。 |
| 施策 6 生涯学習の推進 | |
| 委員 | キクロス祭りに初めて参加してとても良かった。祭りを実施してくれたことに感謝したい。 |
| 委員 | 夫婦の絵手紙等の発表や掲示は、キクロスだけではもったいない。各支所等にも巡回し、掲示してはどうか。 |
| 執行部 | 今後検討したい。 |
| 委員 | 地域に住む幸せや QOL (生活の質) は、文化に触れ、人とつながることで高まっていく。生涯学習の推進はとても重要であり、うまく動いている。達成度の評価が過小評価では。何か課題を感じているのか。 |
| 執行部 | 地域学校協働事業について本年度から本格的に進めていくところで、昨年度は準備段階なので控えた。 |
| 施策 7 スポーツの振興 | |
| 委員 | スポーツの振興においては、コロナ禍で難しい状況だと思うが、工夫した点などあるか。 |
| 執行部 | 各種大会は、コロナ禍で軒並み中止となった。ボートは屋外の競技のため、誘致を進めたいと考えているが、県のリスクレベル 4 であり、レベルが下がった後に対応を進めていきたい。また、桜マラソンについては、期間を定め、自己申告で参加してもらう等、コロナ対策も含めた開催方法等を模索している。 |
| 委員 | 来年も外部評価はあると思うが、しばらくコロナ禍は続くと考えられる。数値が上がらないものについては、取り組みを工夫し継続できるようにして成果をアピールしていただきたい。 |
| 施策 8 市民協働とコミュニティ活動の推進 | |
| 委員 | まちづくり活動において、協働で動く団体が限られているのが現状である。まちづくりリーダー育成と合わせ、まちづくり団体の育成も行ってほしい。特定の団体による事業は、この先の人口減少を考えると、「できるか」、「できないか」の議論となり、やるためにどうするかに繋がらない。各種団体が集まり、みんなで検討できる環境を作ってほしい。 |
| 委員 | フューチャーラボ受講者の中で、組織化への動きはないのか。 |
| 委員 (卒業生) | 正式な団体にはなりきれていない。参加者のやりたい事が多種多様過ぎて、目標を定めてやっていく形になっていない。定期的に会議を開催し、菊池のためにやりたい事、菊池で発信できるものについて話していたが、コロナ禍でオンライン会議のみになっており、まだやりたい事が決まっていない。小グループで、できる人がやれる事を模索している途中である。 |
| 委員 | 今までそのような団体が無かったので、それで良いと思う。厳しい状況だが、今後どうしていくか、市や観光協会だけでなく、違った意見が出てくるような団体ともお話ができていけば、いろんな方法が考えられるのではないかと。コロナ禍で経済を回すためにも、みんなで色々できるのではないかと。 |

| | |
|--------------------|--|
| 委員 | フューチャーラボのプラン発表会が中止になっているが、参加者がまちづくりに対してどういう考え方をしているのか、HP等で公表してほしい。また、具現化するにあたって応援者を求めたり、オンライン会議を行いながら応援出来ないか。 |
| 委員 (卒業生) | フューチャーラボ卒業生もやりたいことの方角性がバラバラである。実現して台湾料理のお店を始めた人や、地域に学びの場を作りたい人は大人の学び講座をしており、自分ができる範囲でやりたい夢を実現している。また、イベントを自分の所属する組織とタイアップし、卒業生がスタッフとして参加している。昨年度卒業した2期生のプランは、今後展示会で発表する。現在は、共通の方角性を持つ卒業生同士が連携し、少しずつ動いている段階である。 |
| 執行部 | 企画振興課としても、団体やNPOなどの活動に向けての支援は、要望等あればバックアップしていきたい。 |
| 委員 | 「市民協働」というキーワードが重要になって20年は経過している。自治体によっては、市民協働課やセンターなどがあり組織化され、場所やノウハウ、つなぐ場の提供、さらに事業補助まで各段階で深く関わっている。菊池市は、まだプログラムベースの段階で、市の中でどのように育てていくかまでは成熟されていない。理想としては、地域の中に新規の団体、国際的な団体、特定地域で活動する団体等、多種多様な団体が存在するのが望ましい。フューチャーラボの受講者数は成果ではない。協働から生まれる市民の様々な活動を把握し、人と人とを繋ぐような仕組みを作り、良い循環になるように育ててほしい。 |
| 委員 | 市は地域づくりのこういった活動に対しどのように支援をしたのか。 |
| 執行部 | 令和元年度は、15団体(区)から申請のあったイベントや地域での夏祭り等に地域づくり補助金を活用し、支援を行った。 |
| 施策9 交流活動の推進 | |
| 委員 | 交流活動の推進において、取り組みの達成度が△1つで○3つだが、総合評価として要改善なのはなぜか。 |
| 執行部 | 国際交流については、コロナ禍における内容の見直しと、今後の方角性を示す必要があるため、要改善とした。 |
| 委員 | 「がんばるふるさと菊池応援寄付金」と「ふるさと納税」の違いは何か。 |
| 執行部 | 基本は同じ。国が行っている「ふるさと納税」を、本市では独自に条例を制定し、その条例に基づいた基金の運用を行っているため「がんばるふるさと菊池応援寄付金」と別称で呼んでいる。 |
| 委員 | 一般会計に入れているのか。 |
| 執行部 | 一般会計として取り扱っている。ふるさと納税は、例えば100万円の寄付があった場合、3割以内の返礼品と委託料で約5割が当該年度の支出となる。残る約5割を基金として積み立て、次年度の事業に充当することになる。 |
| 委員 | 寄付金を優先的に使う事業があるのか。 |

| | |
|--------------------------|--|
| 執行部 | 総合計画に掲げる6つの政策分野の事業に充当している。 |
| 施策 10 歴史文化の保護・活用 | |
| 委員 | 美術館、博物館があればいいと思うが箱物はお金がかかる。そのため、まずは観光や菊池が注目される等のバックグラウンドを作り、徐々に博物館開設につながればいいと思う。 |
| 委員 | 鞠智城は山鹿市それとも菊池市か。 |
| 執行部 | 敷地のほとんどは山鹿市だが、菊池市も一部あり、共同で期成会を設けて国営化に向けた事業に取り組んでいるところである。 |
| 施策 11 男女共同参画社会の実現 | |
| 委員 | 最近では、単なる男女差別のアプローチだけでは広がりがないので、ワークライフバランスや幸せな生活とは等内容を広げながら議論されているところが多いが、菊池での新しい取り組みはあるか。 |
| 執行部 | 継続して働き方改革に伴う意識改革を進め、ワークライフバランスの推進に努めている。 |
| 委員 | 農業委員会でも、次期役員を決めるのに、各地域から1人女性を選出するようにしているが、ある地域では女性の農業委員の選出は難しいと言われた。 |
| 委員 | 農業委員会、PTA 会長、区長等あるが、男性が女性を後押ししないのか、女性がしり込みをするのか。 |
| 委員 | どちらもある。区長については、女性の選出に反発される方もいる。 |
| 委員 | 昔の意識を引きずらないように、若い人には新しい考えを取り入れていく活動や方向性を示していただきたい。 |
| 委員 | 「どうあるべき」を自分で気づくことが大切だと思う。気付きは行政の施策に接して意識も変わる。市役所から率先してそういう機会づくりをやってほしい。 |
| 委員 | 子ども会の会長をしていた時、男性役員から挨拶をしてもらえなかった。男尊女卑は双方の意地の張り合いもあると感じた。女性は女性であることを誇りに思えばいい。 お互いの良いところを認め合い、受け入れるバランスが大切だと思う。女性が活躍することで男性も活躍できると思う。 |
| 施策 12 人権教育の啓発の推進 | |
| | 特に意見なし |
| 施策 13 子育て支援の充実 | |
| 委員 | 待機児童ゼロは菊池が誇れるものの一つなので、市内外に PR できると考える。 放課後児童クラブは、コロナの影響で学校が休校した際、どうなっていたのか。 |
| 執行部 | 放課後児童クラブは、学校が休校になった時でも開所し、児童を受け入れた。 |

| | |
|------------------|---|
| 施策 14 高齢者福祉の充実 | |
| 委員 | 要介護認定率は減少しているのか。県平均と比べてどうなのか。 |
| 執行部 | 要介護認定率はあまり大きく変動はしていない。県平均と比較しても大きな差は無い。 |
| 委員 | 予防事業が拡充して認定率が抑えられているように見えない。もう一歩何か状況を変えるような工夫が必要ではないか。 |
| 執行部 | 介護度が上がる要因として、生活習慣病の重症化と、転倒による骨折などによって重症化する場合があるため、対策は大きく2つとなっている。国の政策でも保健事業と介護予防の一体化事業が始まり、本市においても生活習慣病の予防対策と、100歳体操などの運動事業による転倒骨折対策、認知症予防もあわせて取り組むこととしている。 |
| 施策 15 社会福祉の充実 | |
| 委員 | 地域福祉の充実と市民活動は同じことのように思う。関連する部署が連携して取り組むことが大切だと思うが、難しいのか。 |
| 委員 | 住民主導型が望ましい。子どもと高齢者が交流する場合は住民が主体となる方がやりやすい。住民が主体となった活動は行政が連携せざるを得ないようになると思う。 |
| 委員 | 今後の課題としてほしい。ちなみに熊本市はまちづくり課と保健所が区役所に組織され、健康づくりとまちづくりが一体となり展開している。地域を巻き込んでいく時には、行政は縦割りではなく、課を越えて横断的な展開が必要である。 |
| 施策 16 健康づくりの推進 | |
| 委員 | メタボの数値が R1 年度に一度悪化した後、R2 年度以降改善しているのはどうしてか。特定健診の受診者が減少したのか。 |
| 執行部 | 受診者は増加傾向にある。メタボの割合は、受診対象者が変わっていくので数値が変動するが、R2,R3 年度の見込値は、R3 年度の目標値に近づくように設定した。 |
| 委員 | メタボ該当者の割合が H30 年度から4ポイント増加しているが、集計の間違いではないか。データの取り方等改善する必要があると考える。 |
| 執行部 | (数値の修正報告) H30 年度のメタボ該当者は 15.8%ではなく 17.9%が確定値である。記載している R1 年度の数値は見込値のため、今後、確定値が出る予定である。 |
| 施策 17 自然環境と景観の保全 | |
| 委員 | 地域ぐるみの農地の保全活動にかかる多面的機能について、集落での維持が難しくなっているという話をよく聞く。菊池の現状はどうか。 |
| 執行部 | 一番の問題は高齢化であり、補助金はあるが受け入れる体制ができない集落もある。業者へ委託する場合でも補助金は有効だと考える。今後状況が厳しくなることは認識している。 |

| | |
|-------------------------|---|
| 委員 | 七城地区の地下水の問題で、住民に啓発等実施していることはあるか。 |
| 執行部 | 七城地区では、地下水の硝酸性窒素濃度が問題となっている。各地区で説明会をしながら、浄水器の設置補助や小規模水道事業について協議中である。パトロール等により畜産たい肥の野積みに対し、注意・指導を行っている。水質検査は熊大と共同で七城地区以外でも全地域で行っている。 |
| 委員 | 菊池は水が「売り」である。近隣の自治体では、乳幼児には水を飲ませないと言う人もいる。深刻な事態にならないうちに、適切な対応をお願いしたい。 |
| 施策 18 循環型社会の推進 | |
| 委員 | 「バイオマス産業都市構想」が見送りになったのはなぜか。旭志地区を対象に考えてきたのか。 |
| 執行部 | 酪農家を対象に検討してきた。頭数からすれば七城地区が多いが、材料となるたい肥は地下水の保全とも関係があるため、賛同する酪農家が少なく、また発電による売電価格も低下しているため、採算性が合わず、企業参入の可能性が低いと判断した。 |
| 委員 | 発電以外の利用方法はないのか。 |
| 執行部 | 畜産バイオマスでは、固形物と最終的産物で液肥が出てくる。これも量が多いと処理ができず、結果的に硝酸性窒素が減らず、液肥の処理が課題として残った。他の自治体で取り組んでいたところもあったが、結果的にうまくいってはいない。 |
| 委員 | 他の自治体で上手くいっているところはあるのか。 |
| 執行部 | 北海道は、ドイツ方式のもので実施している。また、宮崎県にもあるが、いずれも採算性などが問題となっている。成功事例というよりはまだ実証実験中の段階だと認識している。 |
| 施策 19 防災・消防体制の充実 | |
| 委員 | 安心安全メール登録者数の目標値 6,000 人はどこから出てきたのか。 |
| 執行部 | 本来の目標値は 5,000 人だったが、R1 年度に達成したため、6,000 人を目指すこととした。世帯数は約 19,000 戸あり、今後も登録者数の増加が見込める。 |
| 委員 | 災害が相次ぎ、今が市民の防災意識が高まっているところだと思う。安心安全メール登録者を伸ばすチャンスであり登録に向けて力を入れてほしい。 |
| 執行部 | 「安心安全メール」と「防災行政ナビ」の 2 つの啓発に努めていきたい。 |
| 委員 | どういう使い分けになっているのか。発信する内容に違いがあるのか。 |
| 執行部 | 「防災行政ナビ」は、スマホで位置情報のリンクや音声案内などがある。安心安全メールは文字情報のみである。 |
| 委員 | 同じ内容を、両方の機械に入力するのは手間が増えたのではないか。 |

| | |
|---------------------|--|
| 執行部 | 入力フォームから両方に送信するようになっている。また、火災の場合は切り替えがあるので、手間はかからない。 |
| 施策 20 安全安心なまちづくりの推進 | |
| 委員 | 成果指標の交通事故発生件数の目標値が、現状より悪い方向となっており違和感がある。 |
| 執行部 | 基準値に基づき目標を設定していたが、各種取り組みの結果、交通事故発生件数が減少した。今後見直しを検討したい。 |
| 施策 21 公共交通の充実 | |
| 委員 | あいのりタクシーが増便されているが、昨年度実績からするとそれほど伸びていない。どう評価するか。 |
| 執行部 | 利用者数はほぼ横ばいの状態で、コロナ禍において1～3月利用者が減少したことを加味すると評価は妥当だと考える。特に、コロナ禍では他人との同乗を嫌がられる傾向があるので、今後はタクシー事業者と感染防止について協議をしながら市民へ啓発し、利用促進を図っていきたい。 |
| 委員 | 一人で乗ると経費がかかるのか。 |
| 執行部 | タクシー事業者の負担は変わらないが、一人で乗ると市の負担は増える。 一人利用も可能だが、予約制としているためどうしても他の利用者の時間帯が重なることがある。 コロナ禍で感染リスクを問題視する方にとっては、他人との同乗を嫌われるので、運営の難しさ、課題を感じている。 |
| 施策 22 魅力あるまちなか整備 | |
| 委員 | 御所通りの緑化事業で、地権者の協力が得られなかった具体的理由は。 |
| 執行部 | 緑化事業である森まちプロジェクトは、景観を向上するために、個人の敷地で利用されていない土地に木や花を植えている。昨年予定していた土地が相続関係で承諾を得られず、植樹ができなかった。 |
| 委員 | 土地を使わせてもらって管理までしなさい、となると嫌がる人もいるかもしれない。市をあげて地域を盛り上げていこうとしている場所なので、森まちプロジェクトの啓発を行い、市民の協力を得られるよう努めていただきたい。 |
| 委員 | ガーデニングコンテストは集落単位か。個人単位か。 |
| 執行部 | 個人単位である。コンテストで得票数により受賞者を決定している。 |
| 委員 | 地域によっては集落単位として耕作放棄地の美化に取り組んでいるところもある。ガーデニングコンテストのような競争の要素を盛り込むと、地域単位で盛り上がる可能性がある。 |
| 執行部 | 検討したい。 |
| 施策 23 移住定住の促進 | |

| | |
|------------------------|---|
| 委員 | 移住者への支援策としては、改修補助金以外では何があるのか。 |
| 執行部 | 市では空き家バンク制度を運営している。制度を活用し、市外から移住した人には改修補助金として最大 100 万円を補助している。また、登録物件の売買が成立した場合は、登録者に 1 件につき 5 万円の謝礼を支払っている。 |
| 委員 | 新たな支援策としてのアイデアはあるのか。 |
| 執行部 | 現補助金制度が 3 年目を迎えており、新たな方向性を検討している。 具体的には、新年度予算の中で本市独自の支援策を考えたい。 |
| 委員 | 子どもの成長に合わせた祝い金を渡しているところもあるが。 |
| 執行部 | 現在、他市の状況を調査し検討している。本市独自の支援策が移住定住につながると考えている。 |
| 委員 | 移住者の実績は高い。好まれる地域があるのか。熊本市に近い泗水町だと単なる宅地なのか、移住地なのか、内容を知りたい。 |
| 執行部 | 移住先の約半数は菊池地域であり、高校進学を考える家庭は、校区外が解除されている泗水地域を選ぶ傾向にある。市全体の PR と合わせ、庁内で連携した取り組みが必要と考えている。 |
| 施策 24 住環境の整備 | |
| 委員 | 市営住宅の需要は今後どう推移していくのか。 |
| 執行部 | 人口が減少しているため、住宅需要も減っていくと考えている。1170 戸ほどある市営住宅を、老朽化に伴い 986 戸まで削減する方向で進めている。 |
| 施策 25 上下水道の整備 | |
| 委員 | 特に意見なし |
| 施策 26 開かれた市政の推進 | |
| 委員 | RESAS とは。 |
| 執行部 | RESAS とは地域経済分析システムであり、内閣府が進めているもの。人口や経済等の分野で構成され、地域経済がどのようにになっているかインターネットで検索すると各種データを閲覧することができる。 |
| 委員 | 菊池市内の様々な統計情報について、簡単に可視化できるようなシステムがあるのか。 |
| 執行部 | 現状ではない。今後進めていきたい。 |
| 委員 | RESAS もあるし、熊本県も GIS のソフトを使えるように提供している。道具は揃っているが、それを活用しきれていない。活用できる人たちが使って発信されたら良いなと思う。行政が活用し、発信するのではなく、市民活動で取り組んでいってもいいと思う。 |
| 施策 27 行政機能の充実 | |

| | |
|-----------------|---|
| 委員 | マイナンバーカードは、他の自治体では交付まで数ヶ月かかると聞いた。本市では交付までどのくらい時間がかかるのか。 |
| 執行部 | 交付まで2ヶ月かかっていたが、交付機器を2台に増やしたため、1ヶ月から1ヶ月半に短縮した。申請から受付承認までに2週間、作成に2週間を要し、国から市に送付される。市で内容の入力等を行い、交付となる。 |
| 委員 | 国の機関での申請受付に2週間もかかるのは、理解しがたい。 |
| 施策28 財政基盤の強化 | |
| 委員 | 市の財政状態はどうか。 |
| 執行部 | 概ね健全な状態であるが、ここ数年が地方債の償還のピークを迎えるので、借入額が返済額を上回らないよう運用している。 |
| 委員 | 借り換えを行うと利息はどうなる。 |
| 執行部 | 借り換えは検討していない。基金は10億円までの規模で、国債の運用を行っている。 |
| 委員 | 基金の積立状況は。 |
| 執行部 | 財政調整基金の状況は、前年度の60億から53億になり7億円減少した。 |
| 委員 | コロナ対策等で財政面はどう変化したのか。 |
| 執行部 | コロナ対策では12億円を超える事業規模の予算を見込んでいる。その内8億9千万円は臨時交付金で対応するが、3億円あまりは市単独の支出となり財政的には厳しくなると見込んでいる。 |
| 施策外 コロナ関連支援について | |
| 委員 | <p>コロナウイルスによる影響について</p> <p>①商工業、特にサービス業の今後の見通しは。</p> <p>②休業や解雇等によるひとり親家庭等の状況は。</p> <p>③生活困窮者の数（生活保護の数）の動向および対処は。</p> |
| 執行部 | <p>①コロナウイルスの影響を受けた市内商工業者に対して、支援を行っている。その一つとしてプレミアム商品券の販売を実施しており、今後も国の経済対策も含めて実施していく。9月の定例議会にも新たな事業を提案している。</p> <p>②学校の休校等で仕事を休まざるを得なかったこと等により、ひとり親世帯の約半数で収入が著しく減少し、追加の給付金を申請し、給付を受けている。</p> <p>③コロナ禍が原因による生活保護申請が数件あっている。特別給付金や国の経済対策等を活用するなどして、大きな生活保護の増加にはなっていない。</p> |